

各団体等との意見交換(意見・報告)

No	会議懸案事項・ヒヤリングでの意見、課題	ヒヤリング (団体名、月日)
1	子どもと高齢者を絡める事業は、アクティブシニアフェスタで、子どものパフォーマンスを高齢者に見せたり、高齢者のパフォーマンスを子どもに見せたりするという形での交流の場にするにはできると思うが、それぞれの域を超えられない。	NPO法人茨木シニアカレッジ、茨木市老人クラブ連合会 (H26. 5. 21)
2	(事業単位で予算を付けるのではなく) 予算を一括で預かり、その中で子どもや高齢者に関連する事業をする方が、NPOも行政も事業の幅が広がるし効率もよく動けるしコストも下がるのではないか。そのような仕組みを考えてほしい。	NPO法人茨木シニアカレッジ、茨木市老人クラブ連合会 (H26. 5. 21)
3	老人福祉センターの活動に子ども事業を絡めるのは、いいモデル事業になると思うが、一団体でやれるものではない。いろいろな団体と協力すべきだが、資金担保をどうしていくかが問題である。市民協働推進課は自治会にまとめた予算をおろして、そこで事業を行うと聞いている。NPO等に対して、そういう事業予算の下ろし方はしないのか。	NPO法人茨木シニアカレッジ、茨木市老人クラブ連合会 (H26. 5. 21)
4	地域協議会はボランティアで動いている。それだけの力があるのかが問題。現在は、組織が寄り集まっただけで、今までの事業の踏襲でしかない。組織や事業を横につなげるパワーのある人間が必要。	NPO法人茨木シニアカレッジ、茨木市老人クラブ連合会 (H26. 5. 21)
5	年に1回でも大学などで何百人かを集めて、シニアと高校生・大学生が意見交換会やパネルディスカッションをし、双方意見交換を行い、それを市民に聞いてもらう。	NPO法人茨木シニアカレッジ、茨木市老人クラブ連合会 (H26. 5. 21)
6	茨木市にある大学(追手門大学)と一緒にやっていってはどうか。市全体の活動をきっかけに、地域での活動を行っていく。その中に障害者に対する認識や支援も織り込んでいく。	NPO法人茨木シニアカレッジ、茨木市老人クラブ連合会 (H26. 5. 21)
7	いきいき交流広場や街かどデイハウスなどについて、加算事業として、例えば午後3時30分から5時30分は子どもと過ごす時間にするなど、子どもを含めた事業を行ってはどうか。それを有償ボランティアに担ってもらう。	NPO法人茨木シニアカレッジ、茨木市老人クラブ連合会 (H26. 5. 21)
8	西宮市の取組み事例を参考に、茨木市内で活動をしている諸団体を集め交流させ、各団体の強みを行政がうまく引き出して体系化すると、大きな力になるのではないか。	NPO法人茨木シニアカレッジ、茨木市老人クラブ連合会 (H26. 5. 21)
9	茨木市の高齢者の地域別人口と子どもの地域別人口の分布状況がわかるようにひとつの地図で作成すると、いろんな施策やビジョンが見えてくるのではないか。	NPO法人茨木シニアカレッジ、茨木市老人クラブ連合会 (H26. 5. 21)
10	行政の縦割り組織の予算組みで、いきいき交流広場の中に加算事業として子ども事業を入れるなら、高齢介護課との連携が必要になる。資金問題も含めてそれができるのか。	NPO法人茨木シニアカレッジ、茨木市老人クラブ連合会 (H26. 5. 21)
11	おもちゃ作りや交流会ならできても、子どもを預かるとなると、かなりの条件が整わないと、責任問題が発生する可能性があり、リスクが非常に高い。	NPO法人茨木シニアカレッジ、茨木市老人クラブ連合会 (H26. 5. 21)
12	シニアカレッジ、老人クラブでは、子どもを対局軸に置いたパフォーマンスとして何ができるのか検討を引き続き行っていきたい。(桑田荘の活用方法も含め)	NPO法人茨木シニアカレッジ、茨木市老人クラブ連合会 (H26. 5. 21)
13	幼児版放課後子ども教室の実施+親とシニアとの意見交換の場があればよいと思う。	NPO法人茨木シニアカレッジ、茨木市老人クラブ連合会 (H26. 5. 21)
14	トワイライト事業やショートステイ、病児・病後児保育など、茨木市の子育てハンドブックに掲載されている事業だが、知らない保護者が多い。	保育運動連絡会 (H26. 5. 22)
15	行政のサービスを知らなかったという声をよく聞く。	保育運動連絡会 (H26. 5. 22)
16	民営化が進む中、新しい保育園や電話番号などの情報が古い。情報提供をもっとうまく行ってほしい。	保育運動連絡会 (H26. 5. 22)
17	子育てハンドブックを子育て家庭みんなが持てる方法を検討してほしい。	保育運動連絡会 (H26. 5. 22)
18	きょうだい2人を認可保育園に申し込み、待機していたが、認可保育園の入園を優先したために、別々になった。きょうだいと一緒に同じ園に入園できるよう、家庭の状況を見て判断してほしい。待機児童保育室に余裕があるなら子どもが安心して過ごせるように、一緒に入れてほしい。	保育運動連絡会 (H26. 5. 22)
19	新制度の小規模保育事業のうち、C型については、できるなら作ってほしい。国の基準を満たした保育園を作り、子どもの生命を守ることが大前提。そのためには専門知識(うつぶせ寝で死亡事故発生している)、保育士の資格、保育の場所など一定の基準を満たしていることが重要である。	保育運動連絡会 (H26. 5. 22)

各団体等との意見交換(意見・報告)

No	会議懸案事項・ヒヤリングでの意見、課題	ヒヤリング (団体名、月日)
20	教育・保育提供区域が茨木市は5ブロックだが、公立の保育所が5か所になり、ある地域は公立保育所までが遠くなる。公立保育所の担うべき役割を考えると5か所では少なすぎるのではないか。民営化は凍結も含めた計画づくりを考えてほしい。せめて1年、2年かけても議論してほしい。	保育運動連絡会 (H26. 5. 22)
21	新制度になっても勤務時間と実労時間が乖離している場合に、今までどおりの利用の仕方ができるのか。勤務時間に合わせた利用となると働けなくなる。 →現在預けている人には、新制度でも同じ形で保育を提供していくことになると思っている。新制度では、保育の標準時間と短時間とに区分が分かれる。標準が11時間、短時間は8時間預けられる。4時間、5時間の保育は国も問題があるのとらえている。運用方法については検討が必要だと考えている。	保育運動連絡会 (H26. 5. 22)
22	保育認定は働く時間等で大きく変わってくる。年度途中で、家族の状況や勤務時間に変更になった場合はどのように対応するのか。細かい対応をしてほしい。	保育運動連絡会 (H26. 5. 22)
23	介護保険同様、保育も全国一律同じように認定されるのか。茨木市の裁量があるのか。あるのなら、きめ細かな対応をしてほしい。	保育運動連絡会 (H26. 5. 22)
24	(保育園について) 近いところへ通えるような制度、運営をしてほしい。	保育運動連絡会 (H26. 5. 22)
25	無認可保育施設を増やすことは、安全性を見えにくくするので、不安を感じる。できれば認可保育所を増やしてほしいが、茨木市の独自性を発揮して、認可外保育施設の基準アップを図ってほしい。	保育運動連絡会 (H26. 5. 22)
26	無認可保育施設に子どもを預けている保護者が、うつぶせ寝等に不安を感じて、市に相談したらその施設に確認を取ってくれたが、その施設は、市に告げ口されたと受け止め、保護者は自分だと分かればどうなるかと逆に不安が増した事例がある。市民から相談があった場合の対応の仕方を考えてほしい。 →取り組み方法は今後も研究していきたい。	保育運動連絡会 (H26. 5. 22)
27	小学校に入学してから、「発達障害の疑いあり」と言われる場合もあるので、安心して小学生になれるように5歳～6歳の就学前に発達障害の健診があればいい。(保育園や幼稚園に通ってなくても) 全員が受けられる体制を作してほしい。 →体制づくりも重要であるが、保護者の受容を促す取り組みを、保幼小中の連携の中で研究していく必要がある。	保育運動連絡会 (H26. 5. 22)
28	(提供区域について) 1ブロックあたり2中学校区が妥当と言われている中、茨木は2～3中学校区になっている。5ブロックでは、広すぎるのではないか。見直してほしい。 →5つのブロックは変えないで、このままいきたいと考えている。大枠は変えないが、事業によって細分化も検討したい。	保育運動連絡会 (H26. 5. 22)
29	保育園の通園にあたり、地域の人と駐車にあたってトラブルが発生しているが、保護者としては遠方から送迎しているため、車を使わざるを得ない。利用しやすい保育所を目指し、少子化をいかに解消していくか、市として前向きな対策を何故出していないのか。 →少子化対策については、現在考えているところである。自由に選択できるよう保育環境の充実に努めていきたい。	保育運動連絡会 (H26. 5. 22)
30	ファミリーサポートセンターでの状況がどうであったのか、情報公開が問題になっている。当事者同士の話し合いでは限界がある。公的責任のもとでファミリーサポートセンターを実施してほしい。	保育運動連絡会 (H26. 5. 22)
31	病児・病後児施設も利用しにくい。どうしたら利用しやすいかは考えてほしい。料金、地理、時間、申込等にも問題がある。検討してほしい。	保育運動連絡会 (H26. 5. 22)
32	国に対しても声を上げてほしい。	保育運動連絡会 (H26. 5. 22)
33	保育所などで保護者の相談に対応できる人が足りない。以前は「課題のある子どもの家庭への支援態勢」「就学前支援」「人権保育」の3加配による担当保育士の配置があり、家庭訪問や相談事業をして課題解決にあっていた。現在は、所長1人と次席の2人ですべて問題を抱えて対応している。気軽に親が相談できる態勢ができず、課題解決が困難になっている。	さわらぎ共育の会 「ゆめの樹」(H26. 5. 26)
34	地元の保育所に入所できない。遠方の保育所でないときがなかつたり、きょうだいと一緒に保育所に入れない現状がある。点数制もあるが、もう少し柔軟な考え方で待機児童の課題解決にあたってほしい。	さわらぎ共育の会 「ゆめの樹」(H26. 5. 26)

各団体等との意見交換(意見・報告)

No	会議懸案事項・ヒヤリングでの意見、課題	ヒヤリング (団体名、月日)
35	小規模保育でA、B、Cなどあるが、そういうものを積極的に活用し、事業者募集をして待機児童や在宅の子どもにも適用できるものと考えてほしい。	さわらぎ共育の会 「ゆめの樹」(H26. 5. 26)
36	公立保育所は最終5つになり、沢良宜保育所が南の拠点になっている。沢良宜診療所を改修して待機児童解消用保育、病児保育、病後児保育ができないか。	さわらぎ共育の会 「ゆめの樹」(H26. 5. 26)
37	私立保育園に通わせている保護者から、進級時に発達に課題のありそうな子どもの在園を遠回しに断られ、退園すると公立保育所へは待機で入れず、私立幼稚園の入園も断られるというようなことがあるという話を聞いたことがある。このような偏見があると困る。何とかしてほしい。 →今後公立保育所を5か所にして、様々な機能を持たせていきたいと考えている。民間の保育園についても、基本的には同様の機能が必要と考えている。ただ、エリア内の公立保育所は、基幹的な役割を持ち、区域内の保育の質の向上を図るための機能を持つ必要があると考えている。中央から行くのではなく、拠点の保育所をベースに行っていききたいと考えている。地域支援担当の保育士を配置し相談支援ができるようにしたいと考えている。	さわらぎ共育の会 「ゆめの樹」(H26. 5. 26)
38	(在宅で困っている方の支援について) 子どもが集団で育つ場を作ってほしい。	さわらぎ共育の会 「ゆめの樹」(H26. 5. 26)
39	沢良宜青少年センターに子どもが遊びに行っても、「来ないでくれ」と言われる。人手不足で子どもを遊ばせる余裕がない。支援学校の子どもは校区内の子どもとつながりたいと思っているのに切れてしまい、居場所がない。集える場所が必要である。	さわらぎ共育の会 「ゆめの樹」(H26. 5. 26)
40	青少年センターは予約をして鍵を開けてもらって使用することになっている。これは面倒で非常に使いにくいので、以前のようにシルバー人材センターの人を常時配置するようにしてほしい。	さわらぎ共育の会 「ゆめの樹」(H26. 5. 26)
41	地域の子どもは、小学校の時から沢良宜青少年センターを利用し、中学生・高校生・大学生と異年齢の中で交流・活動する中で青年に育ち、地域の活動にも積極的に参加するようになっていた。そのような場所、青少年センターを復活させてほしい。	さわらぎ共育の会 「ゆめの樹」(H26. 5. 26)
42	学習支援の場所として使えるとか、小規模でもいいから地域で利用しやすくしてほしい。	さわらぎ共育の会 「ゆめの樹」(H26. 5. 26)
43	青少年センターがなくなったために、親が集える場所がない。	さわらぎ共育の会 「ゆめの樹」(H26. 5. 26)
44	塾に通えない子どもや、家で勉強できる環境のない子どもに対する学習支援「中学生学習会」を実施しているが、教える先生は1人しかいない。ボランティアバンク的なものに教えてくれる人を登録し派遣してもらえるなどの仕組みがあれば、人材の確保がし易いし、もっと広げられる。 →中学生の学習支援はしていきたい。	さわらぎ共育の会 「ゆめの樹」(H26. 5. 26)
45	入学する前に制服等をそろえないといけないのに、その時点では就学援助を受けられず、制服や学用品が買えないので、使い勝手が悪い。弾力的な運用を考えてほしい。	さわらぎ共育の会 「ゆめの樹」(H26. 5. 26)
46	スクールカウンセラーについて、「今聞いてほしい」という相談に対応してもらいたいので、小学校に常時配置してほしい。	さわらぎ共育の会 「ゆめの樹」(H26. 5. 26)
47	子どもも親も身近なところで相談できる場所がない。 →現在は府の事業で、春日丘高校において、中退予防の取組みを行おうとしている。6月、7月からスタートすると、大半は中退してしまっていて、うまく機能しないので、そのあたりも含めて若者を支援する必要があると考えている。	さわらぎ共育の会 「ゆめの樹」(H26. 5. 26)
48	かつて青少年センターが中心となり実施していた地域ネットワーク会議を、現在も保育所、小学校、中学校、高校と茨木市人権みなみ地域協議会のメンバーで、月1回のペースで実施している。そういう横の連携は大事。	さわらぎ共育の会 「ゆめの樹」(H26. 5. 26)
49	教育と子育て、保育は、地域と保護者と行政とが一緒にやらないといけない。地域の課題を知っているのは沢良宜のち・愛・ゆめセンターの相談員なので、そこと連携をしてほしい。	さわらぎ共育の会 「ゆめの樹」(H26. 5. 26)
50	緊急の場合に広場で預かりたいが、一時預かり事業は面積等の条件があり、4カ所以外では現在制度上できない。保護者が困ったときに助けを求められる人がいることが大事で、地域での仕組みが必要。 →元気な高齢者と子育てをうまくマッチングできないかと考えており、老人クラブが窓口になって地域の子育て支援の活動グループを斡旋するなどの仕組みがつかれないかと思っている。	茨木つどい連絡協議会 (H26. 6. 4)

各団体等との意見交換(意見・報告)

No	会議懸案事項・ヒヤリングでの意見、課題	ヒヤリング (団体名、月日)
51	市から補助金をもらえるのは広場では4カ所まで。一時預かりを広場で行うには、より広い場所が必要で、お金が問題。日ごろから支援者の人柄がわかっている広場に預けたいという保護者のニーズは多い。4カ所を超えても補助金をもらえるよう、検討してほしい。 →この5年間でどのくらいまで整備していくのかをこども育成支援会議で話し合っていきたい。4カ所という枠も再度検討したいと思う。	茨木つどい連絡協議会 (H26.6.4)
52	本当に支援が必要な人は、広場にも来ないので、私たちは把握できてない。市が実施しているこんにちは赤ちゃん事業に同行するなどして把握し、地域で見守る体制が必要ではないか。	茨木つどい連絡協議会 (H26.6.4)
53	児童委員と連携し、地域の子どもたちを見守っていくような仕組みを考えてほしい。 →小学校区をベースに、いろいろ関係者が関わりながら、CSWや民生委員が中心になって地域福祉ネットワークを実施し始めている。そのネットワークがうまく機能していけば、掘り起こしもできるのではないかと考えている。	茨木つどい連絡協議会 (H26.6.4)
54	5カ所の公立保育所が地域の拠点になるような体制づくりができればいい →地域を5ブロックに分けて、公立保育所が拠点になって、社会資源である、幼稚園、保育所、つどいの広場や子育てのサークル、福祉委員、民生委員が関係するセーフティーネットをつくっていきたいと考えている。	茨木つどい連絡協議会 (H26.6.4)
55	保健師から「本人だけでは行きづらいようなので付き添って行くから、自然に受け入れてほしい」との連絡が入ったことがある。このような連携は大事だと思う。保健師が鬱(うつ)になっている人に声かけして広場に来てもらうことでいい関係ができ、その後広場に顔を出すようになった人もいる。しかし、出前の依頼が年2回しかできなくなった。地域担当の保健師とのせつかくの連携の糸が切れそうになっている。コミュニケーションがとれるチャンスが減らしてほしい。 →母子手帳配布時に面談をして、広場のことも話している。それにプラスして何をすればいいのか考えたい。	茨木つどい連絡協議会 (H26.6.4)
56	出産後に希望すれば保健師が訪問してくれる。産む前後で状態が変わる人もいるので、訪問時に広場等の情報を発信してほしい。 →保健師の地域担当や地域支援の保育士などが付き添いという形でもいいから、広場のような地域資源につながる動きができればいいと考えている。	茨木つどい連絡協議会 (H26.6.4)
57	学童保育は、支援学級に在席している子は小学6年生まで利用できるが、小学3年生の時点で申請が必要であることを周知できておらず、制度を知らずに利用できなくなった家庭がある。制度の周知徹底を図ってほしい。	CSW(H26.6.6)
58	学童保育に小学6年生まで通えるのは支援学級に在席している子どもだけではなく、今まで通っていた子どもも一緒に利用できるようにしてほしい。 →学童保育は、新制度により、6年生まで利用を拡大する方向だが、学童保育室が不足している事や、職員の配置など課題もあるので、すぐには対応できない。次年度以降、課題の整理を行い進めていく。	CSW(H26.6.6)
59	「茨木プラッツ」に業務委託している茨木市子ども・若者自立支援センター事業は、利用料が割高で、生活保護を受けている家庭は免除もあるので利用しやすいが、免除対象外の家庭は利用しにくい。もっと利用しやすくないのか。	CSW(H26.6.6)
60	授業に集中できない小学1年生(昨日からごはんを食べていない)や、不登校(親の帰宅が遅い)の場合、家庭の状況把握が大切。子の背景にあるものをつかんだうえで、必要な支援につなぐことが必要。	CSW(H26.6.6)
61	身体障害者…支援学校だけでなく、自分が希望する学校に行けるような通学支援の制度(ガイドヘルパーなど)がほしい。	CSW(H26.6.6)
62	家事援助、家庭学習補助など、地域の人と専門職が一緒になって子どもの生活援助に関わっていけるような機能があればいいと思う。	CSW(H26.6.6)
63	結婚後・出産後も仕事を続けられる就労支援施策、近くで預けられる病児保育、同じ保育所内での病児保育が必要である。	CSW(H26.6.6)
64	貧困家庭…負の連鎖が起きている。親の教育も必要。 →ひとり親家庭の事業として、次の計画では、「子どもの貧困」という視点を反映させていきたい。	CSW(H26.6.6)
65	若年妊娠～出産～離婚～ひとり親が増えている。避妊・妊娠・出産など人生設計の考え方などを学校教育で教えてほしい。	CSW(H26.6.6)

各団体等との意見交換(意見・報告)

No	会議懸案事項・ヒヤリングでの意見、課題	ヒヤリング (団体名、月日)
66	年妊娠→出産→育てられない→虐待となってしまうように、妊婦の輪に入りにくい若年妊婦を対象に「若年妊婦・母親のための教室」で親として成長できる場をつくってほしい。	C S W (H26. 6. 6)
67	親に障害がある場合には、障害福祉の支援があるが、障害者の子どもに対する支援として有償ボランティアは利用できない。	C S W (H26. 6. 6)
68	両親がいても養育できない家庭→父親は早朝から深夜まで仕事、母親は病気で入院後自宅療養をしているような家庭では、保育園の送り迎えができない。送迎サービスや養育、家事援助等はないのか。	C S W (H26. 6. 6)
69	外国人家庭…学校からの手紙が読めず、対処方法がわからない。連絡網の電話が受けられない。ポルトガル語等の通訳探しに苦慮するケースもある。通訳手配できる体制がほしい。また、文化の違いから理解されず、理解できずストレスを抱えている。相談の場がほしい。	C S W (H26. 6. 6)
70	非行に走る子ども…家庭が複雑でサポート体制が少なく、保護司の関わりだけでは難しい。もっと手厚い対応が必要。	C S W (H26. 6. 6)
71	ひきこもりや不登校の子ども→学校の先生や地域、C S Wのかかわりにより何とか学校に行けるようになって、次の段階の進学や就職の段階でひきこもりが再発すると、社会とのつながりが切れてしまう。在学時に課題のあった子どもには、途切れないように追跡・支援していけるような専門職や仕組みがほしい。 →次の計画でも在学中だけではなく、卒業後や高校を中退、就労に失敗してひきこもっている若者支援の視点を反映させていきたいと考えている。	C S W (H26. 6. 6)
72	支援が必要な人たちの問題に対し、課を超えてスピーディーな対応をしていただけよう、総合窓口を設けてほしい。	C S W (H26. 6. 6)
73	就学援助費として、小学6年生の3月には、入学準備ができる金額(6万円)を支給してほしい。	C S W (H26. 6. 6)
74	茨木市のこども医療助成を、現在の小学6年生から中学3年生までにしてほしい。	C S W (H26. 6. 6)
75	未婚で出産したひとり親には寡婦控除がないため、離婚したひとり親のように保育料が安くない。他の市町村ではみなし寡婦控除を導入しているところもある。茨木市にも早く導入してほしい。	C S W (H26. 6. 6)
76	宿題をやりきれるような学習支援が必要だと思う。	C S W (H26. 6. 6)
77	大阪府育英会入学資金貸付制度の上限金額だけでは全部賄うことはできない。上限額を30万円にするなどの支援が必要だと思う。	C S W (H26. 6. 6)
78	J A S S O (日本学生支援機構)の入学時特別貸付は、入学後にしか入金されないため、高校3年時に貸付する制度が必要だと思う。	C S W (H26. 6. 6)
79	無利子の貸付制度の充実・拡大、給付型奨学金制度の創設、大学必要経費の減額が必要。	C S W (H26. 6. 6)
80	不登校やひきこもりの子どもの居場所づくり(遊びの場や学習支援の場)には、年齢の近いお兄さん、お姉さんの存在の学生ボランティアがかかわれる仕組みが有効だと実感している。	C S W (H26. 6. 6)
81	小学校へは通えなくても、学童保育になら通える子どもはいる。長期休暇もあるので、学童保育は不登校の子どもも受け入れてほしい。	C S W (H26. 6. 6)
82	不登校の子どもも保護者も孤立傾向にあるため、地域社会とのつながりが必要である。地域社会とのつながりを作るため、学校と保護者の調整役が必要であり、学校以外の地域社会での居場所、児童館機能が重要である。	C S W (H26. 6. 6)
83	不登校になると、学習面で大幅な遅れをとるため、学習面でもサポート体制が必要である。	C S W (H26. 6. 6)
84	ひとり親には、親に対する支援と子どもに対する支援のどちらも必要。 →居場所づくりは大事だということは認識している。子どもたちの居場所や学力を支援できる体制は新たな計画に盛り込みたいと考えている。総合的に子どもや若者が相談できる機能を持った窓口を考えていかないといけない。次期計画に反映していきたいと考えている。	C S W (H26. 6. 6)
85	親、子ども、高齢者など多年代で、地域で何かできる仕組みがあれば、いろいろな施策(子育て、介護、就労関連)を知る機会もできるだろうし、いろいろなサービスを伝えていく役割を担えると思う。	C S W (H26. 6. 6)
86	学校が終わったら行くところがない。地域の中で多年代の子どもと遊ぶ場所もない。地域の人と関わる場所も機会もない。	C S W (H26. 6. 6)
87	長期休みに子どもが安全に過ごせる児童館的機能が重要である。	C S W (H26. 6. 6)

各団体等との意見交換(意見・報告)

No	会議懸案事項・ヒヤリングでの意見、課題	ヒヤリング (団体名、月日)
88	外で遊ぶようにも、公園ではボール遊び禁止等規制が多く、家で親の顔を伺いながらゲームをして過ごす…こんな子ども達に、生きる力が育まれるのか？もっとのびのびと自由に育てられないのか。 →異年齢どうしの居場所が必要。	C S W (H26. 6. 6)
76	■学校で困っていること 宿題が多い、授業中立ち歩く人がある、人の悪口をコソコソ言う人がある、教室にゴミがたまりやすい、給食ではなく弁当が良い、休み時間を長くしてほしい。	放課後子ども教室参加児童、学童保育室入室児童 (H26. 5. 21・27・28、 6. 2・3)
77	■日頃、学校や放課後、家などで困っていること 公園に不審者がでる、公園の規制が多い、公園のトイレが汚い、ボール遊び禁止の公園でボールで遊んでいる人がある、公園に小さい子がいて遊べない、道が狭い、マンションが多く、遊べる場所がない、バス通りが危険、変質者が怖い、自由に遊びたい、道路に犬の糞、校庭が狭い(中条小学校)、遊具が少ない、放課後子ども教室終了後の帰宅時にはパトロールの人がいないので不安、放課後子ども教室がもっと開室していただいたいのに(現状1回/週)。	放課後子ども教室参加児童、学童保育室入室児童 (H26. 5. 21・27・28、 6. 2・3)
78	■学校や公共施設などにあっという間と思うこと 広い公園、遊具(ブランコ、鉄棒、ローラー滑り台、つりばし、うんていなど)、雨天でも遊べる場所、安心してあそべる場所、秘密基地をつくれるような場所、自然とふれあえる場所(ジオトープなど)、一輪車、サッカー、Jボード、ローラーシューズで遊べる場所、スケート、ゴルフのできる場所、異年齢で遊べる空間(幼稚園の子とか小さい子とふれあいたい)、高齢者と子どもと一緒に過ごせる場所、屋内無料施設、川をきれいにして生物を増やしたい、畑を作りたい。	放課後子ども教室参加児童、学童保育室入室児童 (H26. 5. 21・27・28、 6. 2・3)
79	■学童保育で困っていること 部屋が狭い、1年生が宿題タイムにさわぐ、自由時間が少ない。	放課後子ども教室参加児童、学童保育室入室児童 (H26. 5. 21・27・28、 6. 2・3)
80	■備品の希望 ぬいぐるみ、3DS、テレビ、人生ゲーム(ボードゲーム)、ピアノ、ひとりで遊べるゲーム。	放課後子ども教室参加児童、学童保育室入室児童 (H26. 5. 21・27・28、 6. 2・3)
89	若いうちは、正社員も非正規社員もあまり差はないが、将来はすごく差が出る。特に若い人には社会保険のある仕事に就かせてあげたい。日本から派遣をなくしてほしいと思っている。	茨木市母子福祉会 (H26. 6. 15)
90	子どもがいても訓練が受けられるような制度がほしい。	茨木市母子福祉会 (H26. 6. 15)
91	最低限のパソコンのスキル(ワード、エクセル)を学習できる講座を安く受講したい。どんな職種でもパソコンを使うのでパソコンの基礎知識は必須。	茨木市母子福祉会 (H26. 6. 15)
92	公民館やコミセンで実施しているパソコン教室などは昼間や平日以外にも頻繁に行ってほしい。	茨木市母子福祉会 (H26. 6. 15)
93	大阪府母子福祉センターの就職支援の講座は、土曜日もやっているが、仕事があるので行けない。行きたい講座はたくさんあるので、日曜日や夜間にも実施してほしい。	茨木市母子福祉会 (H26. 6. 15)
94	ひとり親家庭としての正社員枠がほしい。	茨木市母子福祉会 (H26. 6. 15)
95	保育園やお年寄りのデイサービスの施設などニーズの多いところに雇用の受け皿をつくったり保育士、介護福祉士等の資格取得の講座も用意し、その資格を生かせる職場をつくってほしい。 →地元企業とのマッチングを考えており、ひとり親家庭だけを対象としたものは行っていないが検討してみたい。	茨木市母子福祉会 (H26. 6. 15)
96	市営住宅は老朽化し、修繕か建て替えかを検討しており、それに伴って適正な入居条件を考えている。	茨木市母子福祉会 (H26. 6. 15)
97	賃貸マンションで築年数がかかなり経過している物件の空き部屋があり、それをうまく活用して、家賃補助を行って入居してもらうことで解決できないかなど検討している。	茨木市母子福祉会 (H26. 6. 15)
98	突然、ひとり親になり絶対に働かないと生活できない状態になる人に対しては、すぐに保育所に入れるようにしてほしい。	茨木市母子福祉会 (H26. 6. 15)
99	認可保育園で、通常は午前7時30分から午後7時まで預かってもらい、母親に迎えに来てもらっているが、母親が入院したため頼れなくなった。保育園でもう少し遅くまで預かってほしい。	茨木市母子福祉会 (H26. 6. 15)

各団体等との意見交換(意見・報告)

No	会議懸案事項・ヒヤリングでの意見、課題	ヒヤリング (団体名、月日)
100	(保育所に) 子どもを預かってもらえないと仕事を探せないのに、現実には仕事が見つからないと預けられない。この矛盾をどうにかしてほしい。	茨木市母子福祉会 (H26. 6. 15)
101	子どもが18歳になると医療費補助など制度が全部切れる。大学生でも、同じように風邪を引くしインフルエンザにかかる。学生の間は制度を延長してほしい。	茨木市母子福祉会 (H26. 6. 15)
102	ひとり親の子どもが相談できる場や支援策がほしい。あればその情報を周知してほしい。	茨木市母子福祉会 (H26. 6. 15)
103	奨学金を高校から大学まで借りると300~400万ほどの借金になるので、外国のように学校費を払わなくてもいいシステムがほしい。	茨木市母子福祉会 (H26. 6. 15)
104	高校や大学に行かないと正社員として就職できない。また、下の子になるほど、大学へ行きたい気持ちがあっても遠慮して「行きたくない」といっている。誰でも行けるように制度を充実してほしい。 →生活困窮者の制度で、学習支援をはじめ、アルバイトやボランティアを通じて社会経験を積んでもらうものがあり、ひとり親家庭にも派遣して勉強を見るとか、相談相手をするなど検討してみたい。	茨木市母子福祉会 (H26. 6. 15)
105	母子福祉会があることを市の窓口で教えてほしい。	茨木市母子福祉会 (H26. 6. 15)
106	児童扶養手当の申請前に送付される現況届けの案内に、母子福祉会のパンフレットと一緒に同封してほしいとお願いしたら即断された。自治体によっては協力的なところもあるので、ひとり親家庭にとって有益な情報は周知してほしい。	茨木市母子福祉会 (H26. 6. 15)
107	広報の中で、「詳細はホームページで」という記載は、パソコンを持ってない人は困るので、「問い合わせ先」も明記してほしい。	茨木市母子福祉会 (H26. 6. 15)
108	就業証明書を得たいがために、就職後すぐに仕事を辞める人や、働けるのに生活保護を受給している人がいる。そういう人は減らしてほしい。本当に頑張っている人に門戸を広げるように制度運用してほしい。	茨木市母子福祉会 (H26. 6. 15)
109	ひとり親家庭医療の医療証が届かない年があり困ったことがあった。市役所に確認してもらったところ、同じ住所の集合住宅に引っ越してきた人と同居していると勘違いされていたことがわかった。更新時の確認をきちんとしてほしい。	茨木市母子福祉会 (H26. 6. 15)
110	支援センターの利用者は、転勤で茨木市に来た人が多く、両親や友達など、サポートしてくれる人が周りにいない。身近なところに相談相手が少ない。	地域子育て支援センター (H26. 6. 27)
111	本当に支援の必要な方に利用されていない。支援センターからアプローチを行っていくべきとは感じているが、支援が必要な方がどこにいるのか分からない。	地域子育て支援センター (H26. 6. 27)
112	地域で支援センターの実施している行事、事業内容を知らない方がたくさんいるため、情報発信として、子どもがたくさん集まる場所でアピールできる機会を探していきたい。また、ほかの機関と連携していきたい。	地域子育て支援センター (H26. 6. 27)
113	ベビーカーを押して歩いていける距離に支援センターが点在していることが望ましいので、すべての保育所、幼稚園に地域子育て支援センターを併設することが必要。	地域子育て支援センター (H26. 6. 27)
114	親同士の情報交換が盛んであるが、保護者に育児力が不足している。	地域子育て支援センター (H26. 6. 27)
115	親子教室に来られる子どもの中に、支援が必要な子どもが1人、2人はいる。お母さんは大変だと思うが、相談を受けたときに、お互いの関係がまだない中では、支援のための連携機関につなげづらく対応が難しい。本当に支援が必要そうな人は、来たいけど来れないのか、来たくなくて来れないのかを把握しにくい。	地域子育て支援センター (H26. 6. 27)
116	地域子育て支援センターは、語り合うことでガス抜きをしたり交流の場にもなっていて有効だとは思いますが、保護者同士が共感し合うところから、もう一歩先の力をつけてほしいと思う。	地域子育て支援センター (H26. 6. 27)
117	ひとり親家庭の居場所づくりが必要。	地域子育て支援センター (H26. 6. 27)
118	在宅保育の保護者に対して、一時保育をしているが、緊急時の場合の定員枠がない時に、つどいの広場の一時保育や認可外保育所を利用すると料金が高額になる。公的補助などを入れて低料金で利用できるようにしてほしい。	地域子育て支援センター (H26. 6. 27)
119	一時保育で、発達等の課題がありそうなグレーゾーンの子どものみを預かるときに、当センターでは1対1でスタッフを配置するようにしている。ほかの一時保育の場合でも加配スタッフを付けてほしい。	地域子育て支援センター (H26. 6. 27)
120	より身近なところで、幼稚園や保育所で地域開放の子育て支援の取り組みをしてほしい。	地域子育て支援センター (H26. 6. 27)

各団体等との意見交換(意見・報告)

No	会議懸案事項・ヒヤリングでの意見、課題	ヒヤリング (団体名、月日)
121	園庭開放して子どもを遊ばせてくれるが、保育士と話をする時間がない。保育士と話をして、子どもの様子などを聞きたいし、近くの公民館などで講演をしてほしい。	地域子育て支援センター (H26. 6. 27)
122	公立の幼稚園は2年保育のため、3歳児の行き場がない。	地域子育て支援センター (H26. 6. 27)
123	選択ができない家庭に必要な情報をどう伝え、支援を行っていくのかは課題である。	地域子育て支援センター (H26. 6. 27)
124	3歳児の居場所が少ないため、3歳児向けの親子教室を始めたり、3歳児の身体測定を園庭開放の日できるようにしたが、年によって定員割れがあったり定員オーバーがあったりする。情報発信して受け取れる人には、定員割れの状況を伝えているが、発信しても受け取れない人への対応ができていない。	地域子育て支援センター (H26. 6. 27)
125	赤ちゃんサロンやベビーマッサージなど、低年齢の赤ちゃんの行事は充実しているが、3歳児などがゆったり楽しく遊べるイベントを定期的で開催するのが難しい。	地域子育て支援センター (H26. 6. 27)
126	妊婦の交流の場を提供したいが、なかなか実現できない。特に初めて出産する人は不安が多く、場として必要であると認識している。	地域子育て支援センター (H26. 6. 27)
127	インターネットで調べれば調べるほど、どんどん心配になり深みにはまっている人が多いと感じている。心配はないと思うが、専門家ではないので対応が難しい。	地域子育て支援センター (H26. 6. 27)
128	支援センターに来る人は、基本的に家にいる人が多いし、子どもとべったりで、子どもから離れることを必要としている人もいると思うので、保育付きの保護者向けの講座が必要。	地域子育て支援センター (H26. 6. 27)
129	連携したくて連絡したのにも関わらず、連携できず、フォローもきちっとできないままで、その後の状況がわからない。連携と言われるが、具体的にどうやって動けば良いのか、どこまでが連携なのか疑問に感じている。	地域子育て支援センター (H26. 6. 27)
130	発達の課題のある子どもを切れ目なく見守っていくためには、情報を積み重ねていかないといけないし、そういう情報を知りながら支援をしていかないといけない。個人情報を守り方、連携の仕方、支援の仕方などの考え方には、統一見解がなく、その都度の対応になるが、ベースのところは、社会的に支援が必要な子どもをどう支えていくかをうたっていくことが必要である。	地域子育て支援センター (H26. 6. 27)
131	夏休みの幼稚園の子どもが行き場所について考える必要がある。	地域子育て支援センター (H26. 6. 27)
132	平成27年度4月から19時まで時間延長する方向で前向きに検討している。まず、1年生から3年生の待機児童を無くすことと、受け入れ児童数が多い教室については教室を分割し、安全、安心な形で運営を進めていきたい。	学童保育室利用児童の保護者 (H26. 6. 28)
133	延長と高学年の受け入れの両方とも必要性を感じているが、6年生まで受け入れるとなると待機児童の発生も懸念されるので優先順位は付けにくい。予算、人の確保の課題や学校との調整もあるので、進捗状況を見極めながら、4年生以降の受け入れについても検討していきたい。	学童保育室利用児童の保護者 (H26. 6. 28)
134	制度が変わっても、研修などを充実し、指導員の資質は高めていきたいと考えている。指導員不足についても、人事配置も含め調整しながら体制づくりを進めていきたい。	学童保育室利用児童の保護者 (H26. 6. 28)
135	3年生頃になると、学童保育以外の子どもと遊びたいという気持ちが強くなってくる。校庭の開放や放課後子ども教室をいつでも利用できる状態を作ってもらおうほうが、4年生以降の実態には合うのではないかと思う。	学童保育室利用児童の保護者 (H26. 6. 28)
136	4年生の子どもは友達と遊びたがり、学童には行きたくないと言っている。夏休みなどの場合は、親としては不安はあるが、プールを開放するなど学校の行事を充実していただけると助かる。	学童保育室利用児童の保護者 (H26. 6. 28)
137	学校側との連携も必要になってくると思う。高学年が利用できるとなると、低学年の子どもたちの安全を守りにくくなるのではないかと思う。	学童保育室利用児童の保護者 (H26. 6. 28)
138	学童保育のほかに児童館のような施設を整備していくのかどうかは課題ではあるが、計画には何等かのかたちで明記していきたいと考えている。	学童保育室利用児童の保護者 (H26. 6. 28)
139	学童と違い、放課後子ども教室には登録制度がないと聞き、子どもの安全を守るためにも、市として登録するよう、地域と連携して取り組んでほしい。 →登録については、放課後子ども教室を所管する青少年課と話をし、どういう形で組めるのか検討していきたい。	学童保育室利用児童の保護者 (H26. 6. 28)
140	(4年生・5年生の日中の過ごし方) 夏休み期間中は、緩やかに大人の目がある中で過ごせる環境があればいいと思う。	学童保育室利用児童の保護者 (H26. 6. 28)

各団体等との意見交換(意見・報告)

No	会議懸案事項・ヒヤリングでの意見、課題	ヒヤリング (団体名、月日)
141	夏休みには、自宅は友達のたまり場となっているので、週に2、3回程度大人の目があるところに行くことができればいいと思う。	学童保育室利用児童の保護者(H26.6.28)
142	子どもが過ごす施設がカード等を発行して、その施設に子どもが行くとカードにスタンプを押してもらえる仕組みがあると親は安心できるのではないかと。 →保護者の安心感を担保しながら、子どもの自発性、自主性も生かせるような居場所を考えたいと思う。	学童保育室利用児童の保護者(H26.6.28)
143	子どもたちの精神的な不安、苦痛を心配している。特に雨の降った日は問題で、それに対する対応はしていただけるのか。	学童保育室利用児童の保護者(H26.6.28)
144	西河原小学校の保育室は1部屋で畳の部屋しかなく、場所が狭い。	学童保育室利用児童の保護者(H26.6.28)
145	低学年と高学年では、保育の仕方は違ってくるのに、3年間で指導員が替わり、人手が足りない。3年ごとに指導員がころころ変わることを何とかするよう考えてほしい。	学童保育室利用児童の保護者(H26.6.28)
146	(学童保育の分割運営の試験的運用について)今年度は大池、彩都で実施し、来年度以降については、試験的ではなく本格的に分割した形で進めることを考えている。そこから見えてくる課題については検証して次年度へ結びつけていきたい。	学童保育室利用児童の保護者(H26.6.28)
147	支援が必要な学童に対する専門的な指導員の配置や指導員が担当する人数の基準を決めて保育の充実を図ってほしい。 →支援が必要な学童の対応する専門員の配置はすぐには無理だが、学校にいる専門の先生に協力してもらいながら対応できるよう、学校と相談しながら進めたい。	学童保育室利用児童の保護者(H26.6.28)
148	(学童保育室の)分割については、春日小学校だけではなく、ほかの教室も含め検討を進めている。	学童保育室利用児童の保護者(H26.6.28)
149	(子育て支援や障害者福祉に関する手引き、ガイドブックなど)手引きは、親としてどういう福祉サービス、支援があるのか、これからどうしていけばいいのか、将来の生き方について選択するための判断になる。手引きがあることを広報し、入手しやすくしてほしいし、情報発信を学校や幼稚園などを通じて行ってほしい。	あけぼの学園親の会(H26.7.3)
150	相談内容によって、子育て支援課と障害福祉課のどちらに相談に行けばいいのか分かりにくくなった。相談内容に応じてどの窓口に行けばよいかわかるような情報提供がほしい。	あけぼの学園親の会(H26.7.3)
151	相談に行こうと一歩を踏み出せる雰囲気の良い窓口をつくって、そこで必要な情報提供を行う。まずは、その窓口をしっかりと知らせるのが大切。	あけぼの学園親の会(H26.7.3)
152	障害は細かいところでは多様性があるが、大まかでも一覧表のようなものがあれば、ある程度は将来の見通しがつけられて安心できるのではないかと。	あけぼの学園親の会(H26.7.3)
153	福祉サービスをコーディネートできる人がいたらいいと思う。その人にあったサービスを紹介したり、大人と子どもは分けて相談できるような人がほしい。	あけぼの学園親の会(H26.7.3)
154	療育施設に行っている世帯については、健診は任意であると分かるように連絡してほしい。茨木市では他の部門との連絡、連携がうまく取れていないのではないかと。 →市では年齢でしか把握できないため、一律で健診の案内を送っている。決して強制ではないことを分かるようにしたい。市役所内部での調整も行ってほしい。	あけぼの学園親の会(H26.7.3)
155	介助員の数を決めるにあたっては、単に生徒の数で決めるのではなく、生徒への支援にかかる時間や量で決めてほしい。 →対象が広く多様なニーズがあり、人数を減らすことなく、支援を充実させるにはどうようなことができるか考えたい。	あけぼの学園親の会(H26.7.3)
156	学童保育では療育を受けられないので、担当の先生にも療育に関する知識を教えてほしいし、児童デイサービスの時間の延長などを今後考えてほしい。	あけぼの学園親の会(H26.7.3)
157	在希望者全員を受け入れるよう努力していただいているが、大規模教室は解消してほしいし、余裕をもった定員の決め方をしてほしい。30人~35人が理想だと思う。そのあたりを整理したうえで待機児童対策に取り組んでほしい →茨木市は40人を基本と考えている。今ある教室をさらに分けて、指導員をつけた運営を考えている。現在大きな教室については分割して運営していく予定。待機児童の解消、分割、時間延長(18時→19時)を検討している。高学年の受け入れは、それらの進捗状況を把握する中で、その必要性を含めて検討していきたい。	茨木学童保育連絡協議会(H26.7.4)

各団体等との意見交換(意見・報告)

No	会議懸案事項・ヒヤリングでの意見、課題	ヒヤリング (団体名、月日)
158	教室を分割しているところが2箇所あるが、30~40人で1つの単位として運営できるようにお願いしたい。	茨木学童保育連絡協議会 (H26.7.4)
159	人員確保の予算までは事業計画には載せないが、事業計画が決まれば、人の確保は市の責任として進めていきたい。	茨木学童保育連絡協議会 (H26.7.4)
160	指導員としての研修等を受け、経験を積んでいって学童保育の質を上げてほしい。 →学童保育の指導員の資質向上については掲載していく予定である。	茨木学童保育連絡協議会 (H26.7.4)
161	学童指導員への応募が少ないことから、指導員の仕事に魅力を感じるものにするとともに、長く勤められるような労働条件、労働環境にしてほしいし、任期付き制度そのものも変えてほしい。	茨木学童保育連絡協議会 (H26.7.4)
162	茨木市として、条例に学童指導員の資格要件を載せてほしい。「支援員」という名称で、資格はなくても子どもが好きで、研修を受けた人は小規模保育ができる。学童の指導員もできる。2年の経験プラス資格を持ったものにしてほしい。	茨木学童保育連絡協議会 (H26.7.4)
163	学童保育と放課後子ども教室の一本化という話は出ているが、学童保育と放課後子ども教室について、市としては、青少年課と連携、話し合いをしながら進めていきたい。	茨木学童保育連絡協議会 (H26.7.4)
164	学童保育のおやつについても考えてほしい。保育園ではおやつを出している。個々で持ってくることになると、忘れる子や家庭の問題もある。楽しみではなく、補食として考えてほしい。 →おやつを市から提供していくことは、アレルギーの問題などもあり難しいが、何かいい方法はないか考えていきたい。	茨木学童保育連絡協議会 (H26.7.4)
165	情報提供するだけでは保護者と子どもの支援にならない。困難な家庭も増えている。積極的な支援の文言も入れていただきたい。	茨木学童保育連絡協議会 (H26.7.4)
166	子どもに対する支援では、学校との連携も書いてほしい。校長と指導員の関係は微妙だろうが、同じ学校の子どものために、学童保育の時間になると子どもに無関心になる先生もいる。	茨木学童保育連絡協議会 (H26.7.4)
167	幼稚園と保育園の連携については、学校などともつながって子どもを見ていくようなしくみを作ってほしい。	茨木学童保育連絡協議会 (H26.7.4)